

学校教育目標		自ら学び、自ら考え、郷土愛と思いやりの心にあふれる子どもの育成		重点目標	「めあてを持ち、学び合い、高め合う子どもの育成」 ○主体的に学び、互いの考えを交流し合う子ども(知) ○人の気持ちを考え、助け合い、支え合う子ども(徳) ○心身ともに健康で、粘り強く挑戦し続ける子ども(体)															
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画												
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)		評価	コメント	次年度における改善策(案)												
重点目標 に 関 す る 評 価	確かな学力(かしこく)	学習の基盤づくり	話を聴く構えづくりを継続的に指導する。	最後までしっかり話を聴くことができる。(児童の自己評価90%)	3	○校内研修で学力向上プランの見直しや学習のきまりなどの指導事項を確認したことで、全職員でそれを意識しながら指導したり、共通の取組を各学年で行ったりすることができた。 ○めあてとまとめを必ず書くことで、次時のめあてづくりの時に前時のまとめを活用する子どもが見られるようになった。 ○ペア交流を継続したことで子ども同士が考えを出し合い話し合うことができるようになった。また、話し方、聞き方の指導は年間を通して継続してきたため、ずいぶん身についてきている。 ○発表の内容や方法を意識して、今まで以上に指導した。また、間違いの書き直しもねばり強く徹底して行った。 △放課後の補充学習の時間は、日程の調整を工夫するとともに、多くの指導者が参加できるように工夫していきたい。 △補充学習の時間に問題の書き直しをさせたが、時間が足りなかった。 △授業改善を全ての教科に広げていきたい。 △音読を朝の活動や国語の学習において、効果的に取り入れていきたい。	A	○学校の自己評価は、適切である。 ○子どもたちが学習のめあてをしっかりと意識しながら学習に取り組んでいるというアンケート結果となっており、素晴らしい。 ○子どもたちが、自分の考えを整理し発言することは、将来においても重要な能力になると思う。 話し方、聞き方の指導や改善計画にもあるような思考の見える化や発表の機会の確保は大切であると思う。 ○自分の考えを表現することについて、学校の取組に改善が見られた。特に、ユネスコスクール子どもサミットやユネスコスクール全国大会の子どもボランティアガイドでは、素晴らしい表現力を感じた。 ○子どもたちへのアンケートで、「先生たちが授業がわからないところがあると、わかるまで教えてくれている」と回答している子どもが大勢であった。落ちこぼれがないようにしっかり指導していただいており、有難い。	○授業の導入を工夫し、子どもの主体的な姿を目指すとともに、全教科において、対話活動による思考の見える化、表現の活性化をより具体的に推進する。 ○対話活動を取り入れた授業を年間を通して、全教科で計画的に実施し、子どもが自分の考えをまとめて発表できる機会を確保する。 ○週計画の音読の時間を確認し、確実に実施する。 ○低位の児童を見据えた補充学習を計画的に実施し、学力向上を目指す。 ○補充学習の時間が確保できるように放課後ではなく昼休み後に設定するなど、校時を工夫する。											
		授業づくり ○基礎学力 ○思考力 ○表現力 (国語・算数を中心に)	めあてとまとめや結論と根拠を書く(考えを可視化)時間を設定する。(国語・算数)	自分の考えをノートに書くことができる。(児童の自己評価80%)						3	○学校の自己評価は、適切である。 ○「気持ちのよいあいさつができた」や「もくもくと時間いっぱい掃除することができた」と回答した子どもがたくさんいることは、継続的な指導の成果であると思う。 ○読書は、豊かな心を育むだけでなく、確かな学力の確保にもつながるので、さらなる推進や継続的な指導が必要と思う。 ○挨拶がとてよくできている。学年が上がるにつれて、ボランティアに参加する子どもたちの挨拶や説明、動きなどもよくなっている。	A	○中休みや昼休みなどにスリッパ並べを確認し、指導を継続する。 ○朝の読書タイムを活用して、読書を推進する。また、児童の実態に合った本を借りるように指導する。 ○学級会で児童が自ら学級の課題などを考えて解決策を決定する機会を設ける。 ○何事も言われたいとしないのではなく、自分たちですんでできるように意識づけの指導を継続する。							
		対話活動を取り入れた授業を工夫し、積極的に実践する(週1回以上)	自分の考えを発表することができる。(児童の自己評価80%)	4										○あいさつ、掃除については、気持ちのよい元気なあいさつや黙って掃除するなど、レベルアップをすることができた。 ○学校行事や体験活動では、児童にめあてを意識させながら取り組ませることができた。 ○図書室に行く時間を設定することで、マナー等も身につけ、本もたくさん借りることができた。 △図書室の貸し出し冊数を見ると、学年や個人によって読書への取組に差があった。 △掃除は時間いっぱい行うことはできている。低学年でも集中して取り組むことができるように、高学年のよさを広げていく。 △今後、スリッパ並べについて、指導と評価を継続して行っていく。	A	○体力向上のために、全校児童で遊ぶ日を設定し、共通実践したり、運動場や体育館で遊ぶことができるように環境を整備する。 ○体力向上については、イベント的に実施するだけでなく、日常的に授業や休み時間でも継続して取り組んでいく。 ○「早寝、早起き、朝ご飯」は家庭の協力を得ながら連携して取り組む。また、偏食についても家庭と連携して改善を目指す。 ○残食ゼロを目指すために、給食の準備時間を短縮し、食べる時間を確保できるようにする。				
		音読タイムを設ける。	教科書(国語など)を声に出して正しく読むことができる。(児童の自己評価90%)														3	○みんなで遊ぶ日を計画的に設定して、外遊びを奨励することができた。また、持久走大会やなわとび検定など、目標に向かって取り組ませることができた。 ○外遊びでは、個人から集団へと質を高めた遊び方を身につけることができた。 ○食べる量を決定したり、偏食がある児童も嫌いなものは早めに食べ終わるなどの方法が身についたりした。食事のマナーについては、まだ身についていない児童もいる。 ○各種通信やHP、Mボード等は定期的に発行し、積極的な情報提供ができた。 ○家庭(保護者)とは、家庭訪問や電話連絡などを密に行うことができ、連携を図ることができた。 △運動場が工事の関係で狭くなったこともあるが、全体的に運動量(遊び)が少なかった。 △地域行事への参加は、期日によっては他の行事と重なり参加ができないことがあった。	A	○アンケートを定期的に行い子どもの悩みを知ることができ、いじめの未然防止、早期発見・対応ができた。 ○保護者に連絡をとったり、家庭訪問をしたりしながら、継続的に児童の状況を確認・把握することができた。 ○いじめ事案では、学校として組織的に対応し、早期に解決することができた。 △常時、積極的な生徒指導を学習・生活場面で実施していく。
	漢字や計算の小テストを定期的実施したり、県や市作成の教材集、補充プリント等を繰り返し活用したりする。	国語の単元テスト80点以上(目標値90%)	4	○関係機関(SV、SSC、訪問指導員、教育相談室、児童相談所)と連携した対応ができた。 ○児童の様子などの情報交換が会議の時だけでなく日常的に職員間でできており、生徒指導にいかすことができた。	A		○「福岡アクション3」を再確認し、それに基づいた対応を継続する。 ○日常的に児童の情報交換が日常的にできたりしているということは、素晴らしい。 ○関係機関との連携がよくできており、具体的な対応(手立て)がとられていると感じた。													
	間違った問題は補足説明ののち、書き直させる。	算数の計算が正確にできる。(児童の自己評価90%)						3	○みんなで遊ぶ日を計画的に設定し、運動(外遊び)を奨励することができる。(児童の自己評価90%)	4	○学校の自己評価は、適切である。 ○外遊びの日などを設定し、外遊びの楽しさを実感させることが、学びの土台となる体力向上にもつながっていくと思う。 ○健やかな体の取組の成果が若干、わかりにくいですが、体力検定や体力アップシートの活用から明らかになっている。 ○子どもたちの健康や体力がどのような状況であり、どのようなかきをもとに「めあてを持って運動にチャレンジすること」の成果がどうだったかを判断するとよいと思う。	A	○「福岡アクション3」を再確認し、それに基づいた対応を継続する。 ○日常的に児童の情報交換が日常的にできたりしているということは、素晴らしい。 ○関係機関との連携がよくできており、具体的な対応(手立て)がとられていると感じた。							
	計算や漢字などの補充学習の時間(放課後)を設定する。	算数の単元テスト80点以上(目標値90%)	3	○あいさつ4箇条(スマイル、ネーム、先取り、立ち止まり)を奨励・表彰する。	4		○学校の自己評価は、適切である。 ○「気持ちのよいあいさつができた」や「もくもくと時間いっぱい掃除することができた」と回答した子どもがたくさんいることは、継続的な指導の成果であると思う。 ○読書は、豊かな心を育むだけでなく、確かな学力の確保にもつながるので、さらなる推進や継続的な指導が必要と思う。 ○挨拶がとてよくできている。学年が上がるにつれて、ボランティアに参加する子どもたちの挨拶や説明、動きなどもよくなっている。							A	○中休みや昼休みなどにスリッパ並べを確認し、指導を継続する。 ○朝の読書タイムを活用して、読書を推進する。また、児童の実態に合った本を借りるように指導する。 ○学級会で児童が自ら学級の課題などを考えて解決策を決定する機会を設ける。 ○何事も言われたいとしないのではなく、自分たちですんでできるように意識づけの指導を継続する。					
	家庭学習習慣づくり	『北っ子』ノートを配布し、記録カードを活用する。(家庭学習強化週間:宮原中校区における小中連携の取組)						学年毎の目標の家庭学習ができる。低30分、中45分、高60分以上(目標値90%)	4	○図書室の本を最後まで読むことができる。低:週3冊、中:週5冊、候:週2冊以上(児童の自己評価90%) 低中学年100冊以上・高学年80冊以上(目標値90%)	3	○図書室の貸し出し冊数を見ると、学年や個人によって読書への取組に差があった。 △掃除は時間いっぱい行うことはできている。低学年でも集中して取り組むことができるように、高学年のよさを広げていく。 △今後、スリッパ並べについて、指導と評価を継続して行っていく。	A			○体力向上のために、全校児童で遊ぶ日を設定し、共通実践したり、運動場や体育館で遊ぶことができるように環境を整備する。 ○体力向上については、イベント的に実施するだけでなく、日常的に授業や休み時間でも継続して取り組んでいく。 ○「早寝、早起き、朝ご飯」は家庭の協力を得ながら連携して取り組む。また、偏食についても家庭と連携して改善を目指す。 ○残食ゼロを目指すために、給食の準備時間を短縮し、食べる時間を確保できるようにする。				
	豊かな心(やさしく)	道徳教育、特別活動、人権・同和教育、生徒指導の充実	廊下歩行ができていない児童は、その場でやり直しをさせる。	廊下は静かに右側を歩くことができる。(児童の自己評価90%)	4		○図書室に行く時間を設定することで、マナー等も身につけ、本もたくさん借りることができた。 △図書室の貸し出し冊数を見ると、学年や個人によって読書への取組に差があった。 △掃除は時間いっぱい行うことはできている。低学年でも集中して取り組むことができるように、高学年のよさを広げていく。 △今後、スリッパ並べについて、指導と評価を継続して行っていく。	A						○中休みや昼休みなどにスリッパ並べを確認し、指導を継続する。 ○朝の読書タイムを活用して、読書を推進する。また、児童の実態に合った本を借りるように指導する。 ○学級会で児童が自ら学級の課題などを考えて解決策を決定する機会を設ける。 ○何事も言われたいとしないのではなく、自分たちですんでできるように意識づけの指導を継続する。						
			学校行事や体験活動は、めあてを設定させ、振り返りの時間を必ず設ける。	友だちと協力して学級活動や学校行事に取り組むことができる。(児童の自己評価80%)					4	○みんなで遊ぶ日を計画的に設定し、運動(外遊び)を奨励することができる。(児童の自己評価90%)	4	○学校の自己評価は、適切である。 ○外遊びの日などを設定し、外遊びの楽しさを実感させることが、学びの土台となる体力向上にもつながっていくと思う。 ○健やかな体の取組の成果が若干、わかりにくいですが、体力検定や体力アップシートの活用から明らかになっている。 ○子どもたちの健康や体力がどのような状況であり、どのようなかきをもとに「めあてを持って運動にチャレンジすること」の成果がどうだったかを判断するとよいと思う。	A		○「福岡アクション3」を再確認し、それに基づいた対応を継続する。 ○日常的に児童の情報交換が日常的にできたりしているということは、素晴らしい。 ○関係機関との連携がよくできており、具体的な対応(手立て)がとられていると感じた。					
図書室でのルールやマナーを守らせ、学年ごとに必読図書を選定し、読書を奨励する。			図書室の本を最後まで読むことができる。低:週3冊、中:週5冊、候:週2冊以上(児童の自己評価90%) 低中学年100冊以上・高学年80冊以上(目標値90%)	3		○あいさつ4箇条(スマイル、ネーム、先取り、立ち止まり)を奨励・表彰する。										4	○学校の自己評価は、適切である。 ○「気持ちのよいあいさつができた」や「もくもくと時間いっぱい掃除することができた」と回答した子どもがたくさんいることは、継続的な指導の成果であると思う。 ○読書は、豊かな心を育むだけでなく、確かな学力の確保にもつながるので、さらなる推進や継続的な指導が必要と思う。 ○挨拶がとてよくできている。学年が上がるにつれて、ボランティアに参加する子どもたちの挨拶や説明、動きなどもよくなっている。	A	○中休みや昼休みなどにスリッパ並べを確認し、指導を継続する。 ○朝の読書タイムを活用して、読書を推進する。また、児童の実態に合った本を借りるように指導する。 ○学級会で児童が自ら学級の課題などを考えて解決策を決定する機会を設ける。 ○何事も言われたいとしないのではなく、自分たちですんでできるように意識づけの指導を継続する。	
給食の分量を自己決定させる。			食事のマナーを守り、好き嫌いをせずに給食を食べる。(児童の自己評価90%)																	3
「食」に関する授業の充実を図るため学校栄養士等を計画的に招聘・活用する。	「食」に関する授業の充実を図るため学校栄養士等を計画的に招聘・活用する。	3	○みんなで遊ぶ日を計画的に設定し、運動(外遊び)を奨励することができる。(児童の自己評価90%)		4		○学校の自己評価は、適切である。 ○外遊びの日などを設定し、外遊びの楽しさを実感させることが、学びの土台となる体力向上にもつながっていくと思う。 ○健やかな体の取組の成果が若干、わかりにくいですが、体力検定や体力アップシートの活用から明らかになっている。 ○子どもたちの健康や体力がどのような状況であり、どのようなかきをもとに「めあてを持って運動にチャレンジすること」の成果がどうだったかを判断するとよいと思う。	A						○「福岡アクション3」を再確認し、それに基づいた対応を継続する。 ○日常的に児童の情報交換が日常的にできたりしているということは、素晴らしい。 ○関係機関との連携がよくできており、具体的な対応(手立て)がとられていると感じた。						
家庭・地域との連携	各種通信やMボード、懇談会などで積極的に教育活動を積極的に紹介する								「早寝・早起き・朝ご飯」ができています。(児童の自己評価80%)	4	○みんなで遊ぶ日を計画的に設定し、運動(外遊び)を奨励することができる。(児童の自己評価90%)	4	○学校の自己評価は、適切である。 ○外遊びの日などを設定し、外遊びの楽しさを実感させることが、学びの土台となる体力向上にもつながっていくと思う。 ○健やかな体の取組の成果が若干、わかりにくいですが、体力検定や体力アップシートの活用から明らかになっている。 ○子どもたちの健康や体力がどのような状況であり、どのようなかきをもとに「めあてを持って運動にチャレンジすること」の成果がどうだったかを判断するとよいと思う。		A					
	家庭訪問や電話・会合等で家庭や地域と密に連絡を取り合い、連携を図る。			学力検査等の結果を配布する。 地域行事への積極的参加を呼びかける。		4			○みんなで遊ぶ日を計画的に設定し、運動(外遊び)を奨励することができる。(児童の自己評価90%)							4	○学校の自己評価は、適切である。 ○外遊びの日などを設定し、外遊びの楽しさを実感させることが、学びの土台となる体力向上にもつながっていくと思う。 ○健やかな体の取組の成果が若干、わかりにくいですが、体力検定や体力アップシートの活用から明らかになっている。 ○子どもたちの健康や体力がどのような状況であり、どのようなかきをもとに「めあてを持って運動にチャレンジすること」の成果がどうだったかを判断するとよいと思う。	A	○「福岡アクション3」を再確認し、それに基づいた対応を継続する。 ○日常的に児童の情報交換が日常的にできたりしているということは、素晴らしい。 ○関係機関との連携がよくできており、具体的な対応(手立て)がとられていると感じた。	
いじめ対応	児童・保護者・教師対象のアンケートを年間を通して計画的に実施する。			児童(月1回)・保護者(毎学期年3回)対象のアンケートを計画的に実施する。						4	○みんなで遊ぶ日を計画的に設定し、運動(外遊び)を奨励することができる。(児童の自己評価90%)	4	○学校の自己評価は、適切である。 ○外遊びの日などを設定し、外遊びの楽しさを実感させることが、学びの土台となる体力向上にもつながっていくと思う。 ○健やかな体の取組の成果が若干、わかりにくいですが、体力検定や体力アップシートの活用から明らかになっている。 ○子どもたちの健康や体力がどのような状況であり、どのようなかきをもとに「めあてを持って運動にチャレンジすること」の成果がどうだったかを判断するとよいと思う。		A					○「福岡アクション3」を再確認し、それに基づいた対応を継続する。 ○日常的に児童の情報交換が日常的にできたりしているということは、素晴らしい。 ○関係機関との連携がよくできており、具体的な対応(手立て)がとられていると感じた。
	学級実践交流会や生徒指導(校内いじめ防止)委員会にて情報を共有し、対応策を検討する。	最低月1回は校内会議で情報を共有し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努める。	4	○みんなで遊ぶ日を計画的に設定し、運動(外遊び)を奨励することができる。(児童の自己評価90%)	4	○学校の自己評価は、適切である。 ○外遊びの日などを設定し、外遊びの楽しさを実感させることが、学びの土台となる体力向上にもつながっていくと思う。 ○健やかな体の取組の成果が若干、わかりにくいですが、体力検定や体力アップシートの活用から明らかになっている。 ○子どもたちの健康や体力がどのような状況であり、どのようなかきをもとに「めあてを持って運動にチャレンジすること」の成果がどうだったかを判断するとよいと思う。	A	○「福岡アクション3」を再確認し、それに基づいた対応を継続する。 ○日常的に児童の情報交換が日常的にできたりしているということは、素晴らしい。 ○関係機関との連携がよくできており、具体的な対応(手立て)がとられていると感じた。												
	「学校生活アンケート」や「いじめアンケート」をもとに教育相談を充実させ、未然防止、早期発見・早期対応を図る。	必要に応じて、個別の教育相談を実施したり、家庭訪問や電話連絡をしたりして、家庭と連携した対応を行う。							4					○みんなで遊ぶ日を計画的に設定し、運動(外遊び)を奨励することができる。(児童の自己評価90%)		4	○学校の自己評価は、適切である。 ○外遊びの日などを設定し、外遊びの楽しさを実感させることが、学びの土台となる体力向上にもつながっていくと思う。 ○健やかな体の取組の成果が若干、わかりにくいですが、体力検定や体力アップシートの活用から明らかになっている。 ○子どもたちの健康や体力がどのような状況であり、どのようなかきをもとに「めあてを持って運動にチャレンジすること」の成果がどうだったかを判断するとよいと思う。	A	○「福岡アクション3」を再確認し、それに基づいた対応を継続する。 ○日常的に児童の情報交換が日常的にできたりしているということは、素晴らしい。 ○関係機関との連携がよくできており、具体的な対応(手立て)がとられていると感じた。	
不登校対応	「福岡アクション3」に基づき継続的に対応する。	欠席児童への対応は、福岡アクション3をもとに1日目は電話連絡、3日目以降は家庭訪問など、早期対応を確実に行う。								4	○みんなで遊ぶ日を計画的に設定し、運動(外遊び)を奨励することができる。(児童の自己評価90%)	4	○学校の自己評価は、適切である。 ○外遊びの日などを設定し、外遊びの楽しさを実感させることが、学びの土台となる体力向上にもつながっていくと思う。 ○健やかな体の取組の成果が若干、わかりにくいですが、体力検定や体力アップシートの活用から明らかになっている。 ○子どもたちの健康や体力がどのような状況であり、どのようなかきをもとに「めあてを持って運動にチャレンジすること」の成果がどうだったかを判断するとよいと思う。		A					○「福岡アクション3」を再確認し、それに基づいた対応を継続する。 ○日常的に児童の情報交換が日常的にできたりしているということは、素晴らしい。 ○関係機関との連携がよくできており、具体的な対応(手立て)がとられていると感じた。
	関係機関(SSW、SV、SC、訪問指導員等)との連携を積極的に図る。	必要に応じて、関係機関と情報を共有する。 校内会議で検討した対応策をもとに、早期対応や継続指導を行う。	4	○みんなで遊ぶ日を計画的に設定し、運動(外遊び)を奨励することができる。(児童の自己評価90%)	4	○学校の自己評価は、適切である。 ○外遊びの日などを設定し、外遊びの楽しさを実感させることが、学びの土台となる体力向上にもつながっていくと思う。 ○健やかな体の取組の成果が若干、わかりにくいですが、体力検定や体力アップシートの活用から明らかになっている。 ○子どもたちの健康や体力がどのような状況であり、どのようなかきをもとに「めあてを持って運動にチャレンジすること」の成果がどうだったかを判断するとよいと思う。	A	○「福岡アクション3」を再確認し、それに基づいた対応を継続する。 ○日常的に児童の情報交換が日常的にできたりしているということは、素晴らしい。 ○関係機関との連携がよくできており、具体的な対応(手立て)がとられていると感じた。												

◇ 学校評価について 【 自己評価 】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70~90%) 2:もう少し(70%~60%) 1:できていない(60%未満)  
【 学校関係者評価 】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである